

棚差し POP の諸項目が書籍探索時間に与える影響に関する研究

学籍番号 0523024 氏名 嶋津直哉

指導教員 鶴田 三郎 教授

1. 序論

近年、書店数は減少の一途を辿っている。出版不況の影響などもあり、2008年の店舗数は2001年に比較して22%(約4000店)も減少している。この現状を解決するためには、書店ごとに書籍探索時間を短縮し、顧客回転率や顧客単価を高める必要がある。

そこで本研究では、書籍探索時間の短縮を目的として、誘導器具である棚差し POP の表示方法が書籍探索時間に与える影響について検討する。

2. 書籍探索時間に係わる要素

本研究では、視認性および視覚探索の観点から書籍探索時間の短縮を目指すことにする。これらの中でも特に文字のサイズ、字体、字間と、距離を変化させることによる認識時間の変化、POP枚数と距離を変化させることによる探索時間の変化の傾向などを実験により明らかにする。

3. POP の諸項目と視認性

POP の諸項目を変化させて視認性の変化を観察したところ、今回変化させた項目の中では文字サイズと距離が POP の視認性に影響を与えていることが分かった。文字サイズと距離の変化による視認性の変化傾向は図1の通りである。

可読率について見ると、距離 570cm 以内では文字サイズ 50pt 以上で可読率が 100%であった。また、認識時間(図1)でも、文字サイズ 50pt と 60pt 間の差が小さいことが分かる。視認性の低い条件下ではゴシック体が視認性に優れていたことから、「文字サイズ 50pt 以上、ゴシック体」であれば十分な視認性が確保できるといえる。

4. POP の枚数と視覚探索時間

POP の枚数を変化させた場合の視覚探索時間の変化傾向は、図2の通りである。

書籍の総合的な探索時間は、POP 枚数が増加す

るほどに短縮されているが、枚数が3枚から5枚ではほぼ横ばいの変化であった。このことから「POP枚数は棚1列につき3枚~5枚程度あると書籍探索時間の短縮が出来る」ということが明らかになった。

5. 結論

本研究により、以下の条件下で書籍探索時間が短縮されることが明らかになった。

- POPの文字サイズ50pt以上
 - 棚1列あたりのPOP枚数3~5枚
 - 字体は視認性が低い場合はゴシック体
- また、字間は探索時間に影響を与えないことも実験結果より明らかになった。

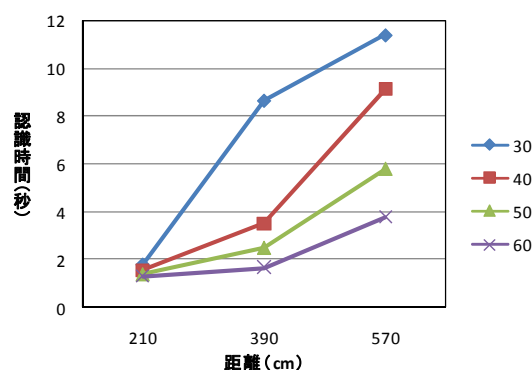


図1 文字サイズ・距離と認識時間の変化

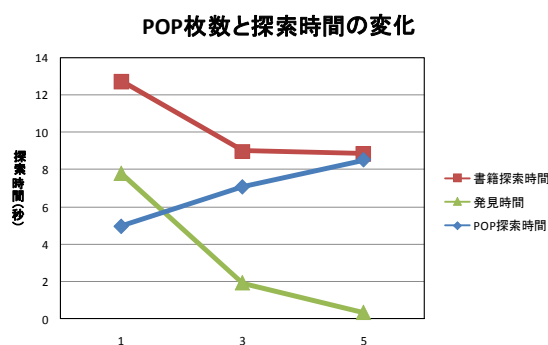


図2 POP 枚数と探索時間の変化

キーワード

棚差し POP、探索時間、出版、枚数